



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

主 題 (2010~2011)

- ・ **国際協会会長** 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』
藤井 寛敏 (東日本区 東京江東クラブ)
スローガン 『Build a Bridge to the Future』
「明日《あす》への橋を架けよう」
- ・ **アジア地域会長** 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』
高田 一彦 (東日本区 横浜クラブ)
- ・ **西日本区理事** 『飛翔たとう ワイズスピリットを胸に』
「Forward with Y's men's spirit in our hearts」
仁科 保雄 (京都キャピタル)
副 題 『Let's meet challenge with calmness』 「泰然自若の精神で」
- ・ **六甲部 部長** 『Show Y's care, Sow the seed of Y's』
安行 英文 (さんだクラブ) 「ワイズの心を、ワイズの種をまこう」
- ・ **西宮クラブ 会長 馬場 一郎** 『交わりを大切に、クラブライフをエンジョイしよう』
「Let's enjoy our club life through friendship!」

2010年12月

751号

64期6号

since 1948.5.17

スポンサークラブ
大阪クラブ
DBC 締結
近江八幡クラブ
広島クラブ

クラブ主役員

- 会 長 馬場 一郎
- 直前会長 浅野 純一
- 副 会 長 清水 彬久
- 書 記 廣瀬 一雄
- 書 記 阪根 新
- 会 計 岩田 健司
- 会 計 足立 康幸
- 監 事 藤原 百合子
- 担当主事 三島 浩司
- 六甲部監事 山口 政紀
- 部広報主査 浅野 純一
- 区次期交流 廣瀬 一雄

2010年12月 西日本区強調ポイント“ EMC - M ” 会員同士の親睦を深め、クラブ発展の為の礎を築こう。西日本区 2000 名に向かって！

新山 兼司 EMC 事業主任 (京都トップスクラブ)

2010年12月第1例会(X'mas 例会)のご案内

日時: 2010年12月18日(土) 午後4時~9時
場所: レストラン オーシャンビュー須磨(海浜公園内)

ドライバー: 濱崎進一メン、山本常雄メン

1. 第1部 開会点鐘 馬場会長
 2. ワイズソング 一同
 3. 聖句朗読
 4. ゲスト紹介 馬場会長ほか
 5. X'mas メッセージ 頌栄短大 塚本潤一チャレン
 6. 会食 一同
 7. 誕生日のお祝い・プレゼント交換(¥1000 程度)
 8. Y's ニュース・お知らせ 馬場会長
 10. YMCA 報告 三島主事
 11. 第2部 潮騒ライブ オールデイズ by ミッキー・スバンド
クリスマスソング・オールデイズ・60/70 年代アメリカンポップス
 12. 閉会点鐘 馬場会長
- 会費 メン・ゲスト 5000 円 メネット 4000 円

今月の聖句

『「さあ、我々は主のもとに帰ろう。主は我々を引き裂かれたが、いやし 我々を打たれたが、傷を包んでくださる。二日の後、主は我々を生かし 三日目に、立ち上がらせてくださる。我々は主を知ろう。主を知ること追求めよう。」』

ホセア書 6章 1~3節 清水彬久メン 選

11月 例会出席状況 在籍会員数 19名

第1例会(11.19金) 第2例会(11.5金)

メン 16名 メン 7名

メネット 1名 メネット 0名

ゲスト・ビジター 5名 ゲスト・ビジター 0名

合計 22名 make-up 0名 合計 7名

出席率 84.2%

ファンド・BFの累計	11月	累計
ニコニコ ファンド	3000 p	15,929p
Brotherhood Fund	4500 p	15,000p
使用済み切手	250 g	430g

Happy Birthday To You

& Merry Christmas

お誕生日おめでとうございます

12/01 馬場めぐみメネット

12/25 JESUS CHRIST

会長メッセージ

馬場 一郎 会長

先日朝日新聞社の取材があって「馬場さんが仕事をする時に大切にされていることは？」という質問をされました。その時、思い出したことがあります。神戸YMCAで仕事をさせて頂いていた時に、総務から出された職員に対してのアンケートがありました。もう10年以上前の話です。そのアンケートの項目の中に、「あなたが仕事をする根拠となる動機は？」というような質問があったと思います。私は聖書から引用し、「いと小さき者に仕えるために」と書きました。2003年イエス団に転職し、初めて見た法人のパンフレットには、その理念である「イエス団憲章」に「最微者（いと小さき者）に仕えるために」のフレーズがありました。この言葉を感じる時、自分の仕事を振り返ることができます。高いところから助けようという驕りではなく、自分の中にあるそのような正直な気持ちがとても大切だと、今もそう思っています。結局、朝日新聞の取材にも同じことを答えました。

12月例会は須磨で、海に沈む夕日を見ながらのクリスマス祝会です。いろんなことに感謝しながら、この日を迎えたいと思います。

11月例会報告

ドライバー 藤原百合子メン

清水 彬久メン

11月第一例会は、ゲストの3名を含め参加者21名で開催されました。最初に、全国YMCAリーダー研修会に参加した前岸もえこ学生リーダーから、学んだリーダー力を実際の活動に活かしていきたいとの力強い報告がありました。そして、食事を挟み、今月の特別ゲストには、地域の問題により理解を深めていくために、西宮市会議員としてご活躍の高橋倫恵氏をお迎えしました。



高橋倫恵市会議員

高橋氏からは、「西宮市政の課題」というテーマでお話を頂きました。同市は、現在の人口が南部地区中心に震災前比6万名増えて48万名と急増している。



高橋倫恵氏のお話を熱心に聴く西宮ワイズ

その多くが子育て世代で著増し、保育所・学校教室・遊び場の不足が深刻である。特にこの夙川地区では保育所の待機児童が特筆され、保育所の開所が追いつかない状況を保育ルームで対応しているのが現状。その意味でも西宮YMCA保育所の役割は評価される。一方、高齢化率も上昇してきている。同市の公営住宅は一万戸と全国的にも多いなか、高齢化率も40%を超え、トラブルが発生して、行政的な係わり方に工夫が求められる。このように、「多子高齢化対策」が行政上での課題である。その他最近発生した問題では、アサヒビール西宮工場が撤退することになり、大幅な税収減が発生・跡地の有効利用の検討がある。以上の発題があった後、対策の難しさが浮き彫りとなった内容について参加者との間で活発な意見交換がなされ、関心の高まりをみせた例会となりました。

手売りカレーラン

Yサ・ユース委員長 長井 慎吾メン

11月3日、神戸市しあわせの村にて第13回神戸YMCAチャリティーランが開催されました。当日は、小春日和に恵まれ、小学生駅伝を始め競技参加者ボランティアで約900名以上が集いました。我々西宮クラブは例年のカレー販売とグループランに2チームを出しました。カレー販売では、昨年より少し控え目の300食を計画し、9時頃からご飯炊きを始めました。お米を炊く水加減は昨年の実績で完璧です。10時過ぎからお客さんが来始めましたが出足スローで「今年はなぜ売れないのかな」と心配していました、大声での呼び掛けが効いたのか、お昼前から沢山お客さんが増えました。



カレーショップ 全景



いつも黙々と奉仕される岩田ワイズ

しかし、途中で皿が足らなくなるアクシデントがあり、急ぎょ山本メンと浅野メンが近くの業務スーパーへ皿を買いに走る場面もありました。昨年にご飯もカレーも多過ぎて最後まで販売をする繁忙さでしたが、今年は早めに完

売して競技を応援する余裕がありました。「これくらいが丁度いいな」との意見が交わされました。280食を販売し、売上は7万円でした。



元気良くスタートする西宮ワイズランナー

一方、グループランは、ナイトドリンカーズ（濱、山本、山口メネット、浅野）、デイジヨガーズ（岩田、藤原、馬場一、長井）で参加しました。今年は着順を競技後に抽選する方式で、残念ながら2チームとも外れてしまいました。昨年までの宣言タイムレースに比べ、少し面白みがないかなとの感想でした。最後のラッフル抽選会では、小野メン、馬場（一）メンが賞品を獲得し、さらに西宮保育園の先生達が沢山ゲットしてここに西宮あり！と思ったのは私だけでしょうか。最後に本イベントで3,558,203円が集まったと報告がありました。参加メンバー御苦労さまでした。

奈良クラブ60周年記念例会

廣瀬 一雄 メン

11月14日の日曜日、奈良クラブ60周年記念例会に小野メンとともに参加しました。会場は、かの有名な奈良ホテル。午後4時からの記念例会ではメモリアルの佐藤メン作詞の奈良クラブの歌に始まり、紺谷（かぜたに）会長の開会点鐘で始まりました。藤井奈良Y

MCA総主事、仁科理事の来賓祝辞のあと今回の実行委員長でもある林メンの永年会員表彰がありました

第二部の記念祝会では坂本阪和部部長による乾杯、奈良クラブとのトライアングルDBCの御殿場クラグ、名古屋東海クラブの各会長の挨拶、奈良Yリーダーによるキャンプソング、奈良クラブメンバー全員でハーモニカ合唱でのフィナーレとなりました。



天平スタイルの仁科理事

期広報事業主任の奈良クラブの辻野 啓一メン、次期メネット事業主任の熊本ひがしクラブの大澤玲子メネット、次期理事事務局長の近江八幡の安田博彦メン、次期理事事務局員の草津クラブの滝本英子メン、次期LD開発委員長の神戸学園都市クラブの藤井久子メン、LD開発委員の大阪河内クラブの正野忠之メン、西日本区事務所職員で大阪西クラブの北村久美子さんと次期交流事業主任の私でした。

熱心な議論の会議を終えたあとは新大阪で懇親会をもち親睦を深めた半日でした。



after 第3回事業主任会

西日本区だより5

2011～12交流事業主任 廣瀬 一雄メン

11月28日の日曜日、第3回事業主任会が新大阪の西日本区事務所で午後1時に開催されました。この会合は次期理事方針案、各事業主任方針案、強調月間などのすり合わせでした。

出席者は次期理事の近江八幡クラブの浅岡徹夫メン、次期書記の近江八幡の坂井繁メン、次期会計の滋賀蒲生野クラブの三原茂靖メン、次期YMCAサービスユース事業主任の広島クラブの藤川 洋メン、次期地域奉仕・環境事業主任の彦根シャトークラブの戸所岩雄メン、次期EMC事業主任の京都グローバルクラブの大岩英人メン、次期ファンド事業主任の大阪茨木クラブの三牧 勉メン、次

新シリーズ

神戸YMCA創立125周年記念事業を成功させよう

125年を振り返って

(その5)

125周年記念事業実行委員長

長井 慎吾メン



125周年に際し活動の原点を振り返るため、

神戸YMCA125年の先達の偉業をレビューしています。

前回は戦争により大切な会館を全焼失したことを伝えました。今回は戦後活動の復興です。敗戦の余韻の消えない神戸市街は、大半の建物を焼失し、遠望できる程の焦土と化していました。そんな中で、YMCAを心底愛した

本城総主事の指揮の下、中田亀次郎、長谷川滋の三人は復興の第一歩を踏み出します。当時の神戸教会牧師鈴木浩二と本城を支援した、神戸教会員の芳川筈之助や白石救馬らの熱意により、神戸教会の1階を借用し仮事務所を設置、1945年10月28日に、戦後初の理事会を開き、来春より神戸教会の講堂で教育事業を開始することを可決します。年が明けて1946年4月21日に戦時中途絶えていたイースター昇天賛美礼拝を神戸諏訪山金星台で再会し800名が参列しました。これは、現在でも東公園で引き継がれています。また、再開にエネルギーを燃やしているさ中、私たちの西宮YMCAの設立発会式が1946年3月6日、西宮北口教会で行われ、さらに、その後姫路にもYMCAとの願いが出て、同年6月に設立準備会を開きます。神戸YMCAでは、廃墟の中で、戦後初の会員総会を1946年5月5日に神戸教会仮事務所で行われ、正会員124名中、22名が集まったとあります。戦後わずか1年も経過していないにもかかわらず、YMCA事業の復活はめざましく、教育事業以外にも、各種諸集会では、文化に飢えた人々で一杯の有様でした。イースター音楽礼拝のほか、母の日講演会620名、童心復興こども会は年間4回開催され、のべ1850名が参加しました。YMCAの中において奉仕することを目的に設立されたワイズメンズクラブも、1944年以来の休会を解き、1946年7月に北京より引き揚げてきた奈良伝総主事の呼びかけで再開を計画し、9月17日に神戸教会地下で再開第一例会を持ちました。この時、幹事長は涌井安太郎、集まったメンバー27名の中に大先輩の川瀬貴誉一メンの名前がありました。このようにして、復興に立ち上がった会員主事たちは、YMCAを自分の分身のように受け止め、資金づくりのために、涙ぐましい努力と結束を見せたとあります。現在の財政や事業低迷の状況は戦後復興の比ではあり

ませんが、先輩たちが見せた「努力と結束」を125周年には私たちにりに見せることが求められているのではないかと思いました。

リーダー会だより

西宮・宝塚YMCAリーダー会 みはら ひなこ 三原 妃那子さん

いつもリーダー会を応援していただきありがとうございます。

11月3日(水)チャリティーランでうどんの販売とリーダー会からも駅伝と仮装に出場しました。普段会うことができないいろんなYMCAの方々とお会いできてとても貴重な体験ができた1日でした。野外活動ではロビンフッドは、西宮市塩瀬町にある蓬莱峡で竹筒ご飯とハンバーグを野外料理で作りました。トマト・チーズ・もやし・コーン・カレー粉・パイナップルの6つの食材の中から1つ材料を付け足して各グループオリジナルのハンバーグを作りました。いつもはお母さんが作っている物を何気なく食べていたメンバーも自分が作ってみて「お母さんはいつもこんな大変なことをしてるんだね。」とお母さんに感謝していました。竹筒でご飯を炊いたり竹のお皿でおかずを食べるという日常生活では決してする機会がない体験に自然の凄さを改めて感じていたメンバーや竹以外にも出来るのかと自然に興味を示していたメンバーもいました。水の配分を間違えて固いご飯が出来てしまったグループもありましたが、みんな自分達で作った料理を満足げに美味しそうに食べていました。笑顔が溢れるとても楽しい1日になりました。

これからもリーダー会一同頑張りますのでよろしくをお願いします。



西宮YMCA 三島浩司メン

昨年は、ベルリンの壁崩壊から20年の年でした。東西冷戦の象徴であるこのベルリンの壁以上に頑丈な壁、朝鮮半島の38度線。この38度線を挟んで、つい先日、北朝鮮による韓国・延坪（ヨンピョン）島への砲撃という衝撃的なニュースが成果移住を駆け巡りました。再び朝鮮戦争？今から60年程前の朝鮮戦争では、日本が敗戦の混乱からいち早く経済復興を成し遂げる原動力となった「戦争特需」がりましたが、今回の砲撃から朝鮮戦争が再び起こればどうなるのでしょうか？戦争特需で日本の景気がよくなるのでしょうか？などと言ってはおられないのではないように思います。60年前と違って、今の北朝鮮には核兵器があります。「戦争特需」どころか、世界的な核戦争にもなりかねません。

12月は、私たち人間の罪の贖いと許しのためにお生まれになったイエス様の誕生を祝うときです。この意味を今一度噛み締め、世界中に人々と共に知恵を出し合って「平和」を守るために何をなすべきかを考え、行動していければと思います。

11月3日には、13回目となる神戸YMCAチャリティーランが、神戸市北区にあるしあわせの村で開催されました。900名余りのランナーと300名余りのボランティア、観戦にこられた家族の皆さんなどを加えると2000名余りの方々が集まり、多くの出会いと交わりを与えられた1日となりました。西宮YMCAや保育園からもランナーやボランティアとして、また、観客として多くの方々が参加してくださいました。ワイズメンズクラブの皆さんをはじめ、ユースボランティアリーダー、講師の方々等、お支えいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。今年度の支援金は約350万円。この支援金は、全国のYMCA、また、神戸Y

MCAで行われる障がいのある方々のためのプログラム運営に活用させていただきます。



ナイドリカズ
山口洋子 外
初参加 善戦

デヴィッド
岩田 外
無理しないで！



また、10月に開催いたしました西宮YMCA・西宮YMCA保育園カーニバルでは、31万円余りの収益がありました。この収益は、西宮市立小学校5年生への水上安全キャンペーンパンフレットの配布、発達障がいの検査キットの購入と使用方法の研修、神戸YMCA国際協力募金、神戸YMCA125周年協賛のために活用させていただきます。本当にありがとうございました。

今後の予定

- 1) 西宮・宝塚YMCA 少年少女クリスマス
西宮・宝塚YMCAのボランティアリーダー達の手による、子どもたちのためのクリスマス会です。リーダーによる劇や歌、ゲームなど。ぜひお越しください。
日時：12月4日(日) 10:30~12:00
場所：西宮市大学交流センター
(阪急西宮北口駅 ACTA 西宮東館6階)
- 2) 宝塚チャリティ市民クリスマス「キャロルを歌う夕べ」
宝塚ワイズメンズクラブが中心となって開催される宝塚の市民クリスマスが下記の様に行われます。お出掛け下さい。
日時：12月17日(金) 午後7:00 開演
場所：宝塚ベガ・ホール(阪急清荒神駅すぐ)
- 3) 第52回神戸市民クリスマス
今年度の市民クリスマスも「キャロリング in Kobe」として北野と元町でキャロリ

ングが行われ、その後、子どもプログラムとほっとタイムをはさんで、祈りと祝福のときが持たれます。ご参加ください。

日時：12月17日(金)19:30～20:30
(キャリブは17:00～)

場所：日本聖公会神戸聖ミカエル教会
(県庁西)

4) 神戸YMCA役員合同クリスマス

青年会及び3法人の活動や事業を役員・評議員として支えてくださっている方々を対象とした合同クリスマス会を開催します。役員・評議員の方々は是非、ご出席下さい。

日時：12月20日(月)18:30～21:00

場所：神戸YMCAチャペル(礼拝)

神戸サイコー亭(祝会)参加費3,000円
当日17:00より、祈禱会を持ち、次年度年間聖句を決定します。合わせてご出席ください。礼拝の奨励は今井鎮雄顧問に奨励をお願いしています。

5) 新年職員礼拝

新しい年を迎え、職員は礼拝をもって一年をスタートします。ご一緒下されば幸いです。

日時：1月4日(火)9:00～10:00

場所：神戸YMCAチャペル

6) 新春YYフォーラム(創立125周年キックオフプログラム)

ワイズメンズクラブと共催で、新春の懇談の時を持ちます。創立125周年を記念する2011年の幕開けで、創立記念のキックオフプログラムとして開催されます。今回もコース委員会の若い委員の方々が企画してくださいますので、是非ご出席ください。

日時：1月8日(土)13:00～18:00

場所：神戸YMCAチャペル他

西宮YMCA保育園だより

三島浩司メン(保育園園長)
(西宮YMCA保育園だより11月号より)

11月の主題：やってみる

もう10年以上前になりますが、神戸YMCAが長年に渡って続けている「タイワークキャンプ」に引率者として参加しました。それまでの生活で、全くといっていい程タイ語に触れたことのなかったキャンパー全員が覚え、今尚忘れ

ていないタイ語が4つあります。「サワディーカ(こんにちは)！」、「マイペンライ(ドンマイ)！」、「アロイ(おいしい)！」、そして「コーブンカ(ありがとう)！」。片言の英語も殆ど通じない村の人々とは、この4つの言葉で心を通わせワークを進めていきました。そのキャンプでの私たちのワークは、タイのある村で、自然に優しい循環型の農業を学ぶ施設として活用する、鳥小屋や豚小屋などを建設することでした。建設といっても、私たちの滞在時間は僅か数日のことでしたので、その殆どは現地の人々が作業をしてくださっていました。また、私たちの感覚では「小屋建設」というより「小屋作り」といった程度のものでした。けれどもこの小屋作りに対し、村だけでなく、郡の責任者までが来られ、盛大な「感謝の会」を催してくださいました。また、子ども達のためにいくらかの文房具やおもちゃ、古着等を持参し、いくつかの村を回りました。この時もこちらが恐縮するほど子ども達から感謝の言葉をいただきました。「コーブンカ(ありがとう)！」と。村には電気は通っているものの、水道やガス、勿論水洗トイレなどもない日本の生活では考えられないような状況でしたが、村の人々は、殆ど言葉も通じない私たちに、とって暖かく接してくださいました。そして、最後の別れの時には「皆さんと出会えてうれしかった。来てくださってありがとう(コーブンカ)。」という言葉をいただきました。ワークキャンプに行く前には、殆どのキャンパーが「何かをしてあげよう！」と思っていたと思いますが、キャンプが終わってみるとこちらがたくさんの目に見えないものをいただけていました。再会を約束しつつ別れた村の皆さんとの再会はまだ果たせていませんが、あらためて心から「コーブンカ！」

「あなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。」イエス様の使徒とされたパウロは、エフェソという町のイエス様を信じる人々が、イエス様の愛の中で歩いていけるようにとお祈りしました。自分自身のためではなく、エフェソの人々のために。パウロ自身は既にイエス様の大きな愛の内にあつたからこそ、エフェソの人々のために懸命に祈ることが出来たの



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

2010年12月ブリテン別冊

EMC通信 3

EMC委員 小野 勅紘メン

1. EMC活動月例報告

今期EMC活動は皆様のご協力で順調に進んでいるようです。出席率は「じゃがいもファンド」も「準例会」としてMU扱いにさせていただき10月も100%達成。今期は西日本区大会表彰を目指していますので皆様ご協力下さい。一方増員は+2名の増員を達成しましょう。

2. MU(メイクアップ)制度の活用

ワイズの第一例会に出席出来なかった場合「MU(メイクアップ)」制度でカバーして下さい。

同クラブの第二例会、他のクラブの例会、重複して出席出来なかったYMCA行事です。ロータリーやライオンズでは基準は厳しいようですが、我がワイズでは参加意欲促進で少し緩和してもいいのではないかと思います。例会欠席でも多くの手段でMUをご利用されたい。

3. 他クラブ・他部の実情と西宮の挑戦

京都部や九州部などではEMC活動高揚のために、是非はともかく、第一例会も第二例会も同じ例会を開催し、どちらに出席しても認める制度で年間90%以上はおろか200%を達成しています。これはトリックですが、何とかして達成しようとの努力の結果でもあるでしょう。我がクラブでは純粋な形で90%以上に挑戦したい。ワイズの原点、「出席第一」を実現しましょう。

4. 増員計画

増員計画では、ここ10年来最高20名台の半ばまで行っては戻る傾向ですが、青年会員の増員で平均年齢を下げたい。幸い毎年1名ではあります

が成果が出ています。皆様のご友人、お知り合いを例会にお誘い下さい。

(増員) M

現在数	目標	増員数	合計	増加率
19	+2	0	19	0.0%

(出席率) C

月	在籍	出席	MU	合計	出席率
7	19	18	1	19	100%
8	19	14	1	15	78.9%
9	19	18	1	19	100%
10	19	13	6	19	100%
11	19	16	0	16	84.2%
通算	95	79	9	88	92.6%

長浜クラブプラスワン例会に参加

10月3日の「びわこ部会」で長浜クラブのプラスワン例会の案内を大阪クラブと間違えて受け取った。長浜クラブのプラスワン例会には以前から興味があったのでいい機会だと思い初めて参加してみた。長浜クラブはこの試みで、EMC活動を強化し飛躍的にメンバーを増やしたとのこと。(現在46名で今期4名の入会を予定)

10月21日会場では臼井元理事、松岡元EMC主任、吉村会長(びわこ部会では足が悪いのに松葉杖で涙ながらの握手)、渡壁副会長らが暖かく出迎えて下さった。メンバーが若いのにもびっくり。新山EMC主任、林EMC主査、井之上LD委員長他近隣クラブの会長も参加。

聞けば、プラスワン例会は、会員1人ひとりが入会候補の友人を年間を通じて予定しておき、この例会(通常の例会に1回プラスという意味)で、

いつもよりは少し豪華な食事でゲストを持って成すとのこと。3000円の会費でホテルでの例会で「松茸の土瓶蒸し」が付いていた。ビジターもその食事も楽しみで参加とのこと。



ゲストスピーカーは渡壁副会長の中学時代の恩師で京都女子大学名誉教授(児童造形教育)土田隆生先生。「エコロジカルアートの求めるもの」と題して興味深いお話をいただいた。先生は幼児教育をアートで訴えようと、京都女子大の教え子やボランティアを中心に「琵琶湖水源の保全活動」を「アート」で訴える活動をされています。手始めに琵琶湖の砂浜に女子学生を埋めて「琵琶湖水源を指差す」というスタイルは変わりはなく、オーストラリア、ドイツ、イギリス、イタリアと遠征し、ついにエジプトのピラミッド前、究極はフランスの世界遺産「モンサン・ミッシェル寺院前」でパフォーマンスをしてきたもので、この活動はまだまだ続くそうだ。



茨木クラブ例会に参加

私は茨木市に住み、仕事は京都、ワイズは西宮と3府県を駆けずり回っている。茨木に住んで早や31年、第二の故郷茨木市の「茨木クラブ」には一度出席してみたいと思っていた。今期西日本区のお役目も終わり、時間が出来たので11月9日(火)茨木市役所のクリエイティブセンターの例会に参加した。今期会長はお若い市議員でもある塚会長。メンバーは20人弱。



茨木クラブ例会の様子

ゲストスピーカーは茨木や西宮でも整骨院を営む「ケン太針灸整骨院」の斎藤敬範院長。整骨士の立場から健康のあり方や必要性をお話いただいた。身体的、精神的、社会的健康に加えて「霊的健康」というものに興味を持った。これはspiritualと訳されるがいわゆる「生きがい」「心の支え」「前向きな姿勢」というもので、新しくWHOで採用された。出席点呼で「君」と呼ぶのはワイズの古い仕来りたりで中西部は多くで採用。報告や誕生祝い、入会候補者への対応は丁寧と感じた。(塚会長が「Cメンバーでもあり」C会員を全部入れようと意欲的) 斎藤先生が西宮でも開院とのこと西宮クラブに勧誘したところ、茨木にお誘いしているので困ると塚会長からお叱りを頂いた。むしろ茨木在住の私の転会はどうかとなった結末でした。(失礼)

両クラブの例会に参加しての感想

通常の例会とそう違いはないが、京都部や大阪クラブ、茨木クラブでは「食前感謝祈祷」を礼拝形式とせず宗教色を見せないという気配りが感じられた。長浜クラブでは祝部(ほうり)主事が食前感謝祈祷をされたが、大阪クラブでは「食前感謝祈祷」の代わりに「日々の糧」を歌っていたし、茨木クラブではドライバーが茨木神社の宮司ということもあってか「いずれの神様にも仏様にも感謝して日々の糧を頂戴いたします」とされた。ロータリーやライオンズと同じように「奉仕」と「親睦」を掲げて集う仲間としては、どんな立場の方々も平等に参加出来る気配りが必要であろうかと思われる。私自身も以前に会員増強で知り合いを勧誘しようとしたら「私は信者じゃないので…」という言葉が多く耳にした。教会と区別されていないように思った。また逆にYMCAのある会員から信じられない質問を受けた。「教会はYMCAと何か関係があるのでしょうか」と。YMCAというとキャンプや予備校というイメージしかなかったのではないかと思う。

プラスワン例会では事前の準備に万全を期して、プラスワン例会で参加を呼ぶのではなく、それ以前の弛まない努力で既に参加した候補者は既にある程度入会の意思を固めているように感じた。各部で「EMCシンポジウム」の開催をよく聞くが六甲部では今までその機会はなかった。多くを学ぶことが出来た例会参加であった。